

2019年度九州大学法科大学院入学者選抜試験

(第2次募集)

試験問題

論文試験

(注意事項)

- 一 本試験問題は指示があるまで開かないこと。
- 二 本試験問題は（この表紙と白紙を除き）13頁、解答紙は2枚である。「始め」の合図があったら、それぞれ確認し、解答紙のすべてに受験番号を記入すること。
- 三 解答文は横書きとし、所定の解答欄に記入すること。
- 四 論文試験の筆記具は、B又はHBの鉛筆又はシャープペンシルを使用することとし、それに従わない答案は採点しないことがある。
- 五 ラインマーカー及び色鉛筆の使用は、問題検討のために、問題用紙及び答案構成用の下書き用紙に限り許可する。

I 次の文章をよく読んで、問(1)・(2)に答えなさい。

【出典】E.H.カー(著)・清水幾太郎(翻訳)『歴史とは何か』(岩波新書、1962年) 4-9頁、24-27頁、33-35頁、38-40頁

なお、問題の作成に当たり、原典の文章を一部加工している。

問(1) 下線部①「歴史的事実とは何か」。この問題に対する筆者の見解を200字以内で説明しなさい。

(20点)

問(2) 下線部②「歴史とは歴史家と事実との間の相互作用の不断の過程であり、現在と過去との間の尽きことを知らぬ対話」と筆者がいうのはなぜか。

歴史とは何かという問題に対する異なる二つの見解とそれに対する筆者の批判を踏まえつつ、550字以内で論じなさい。

(55点)

II 次の文章をよく読んで、問(3)・(4)に答えなさい。

【出典】朝日新聞取材班『子どもと貧困(増補版)』(朝日文庫、2018年)254-271頁
なお、問題の作成に当たり、原典の文章を一部加工している。

問(3) 下線部③につき、どのような意味で書かれているか。問題文章の内容をふまえて、250字以内で説明しなさい。

(25点)

問(4) 給食無償化に関してその実現を阻む要因を挙げた上で、無償化の様々なメリットについて、合計500字以内で論じなさい。

(50点)